

刑法総論Ⅱ

科目ナンバリング CRL-102
必修 2単位

堀田 晶子

1. 授業の概要(ねらい)

刑法は、犯罪と刑罰に関するルールです。1年次に学修する刑法総論では、すべての犯罪に共通する要素(犯罪の成立要件)を分析し、「およそ犯罪とは何か」を考えます。一見、抽象的に見える犯罪論も、具体的な事例を用いてイメージすることで、確かな理解へと繋がります。1年間を通じて、刑法総論の主要な論点と向き合い、法解釈の技術を学ぶとともに、犯罪論を体系的に理解する法的思考力を身に付けます。

2. 授業の到達目標

- ①刑法総論の主要な論点について、判例の立場や学説の対立を意識しながら、具体的に説明できること。
- ②法解釈の技術を学び、犯罪論を体系的に理解する法的思考力を身に付けること。

3. 成績評価の方法および基準

基本的には試験によって評価します。評価配分の目安は、試験90%、授業への貢献度10%です。授業への貢献度は、勉学への意欲や授業態度等によって総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書

以下のテキストをお勧めします。本には相性があるので、この中から自分に合った本を選んでください。

大塚裕史・十河太郎ほか 『基本刑法1・総論[第2版](2016)』 日本評論社

井田良 『入門刑法学・総論[第2版](2018)』 有斐閣

井田良 『講義刑法学・総論[第2版](2018)』 有斐閣

井田良・佐藤拓磨 『よくわかる刑法[第3版](2018)』 ミネルヴァ書房

山口厚 『刑法総論[第3版](2016)』 有斐閣

参考文献

井田良 『基礎から学ぶ刑事法[第6版](2017)』 有斐閣

西田典之・山口厚ほか 『判例刑法・総論[第7版](2018)』 有斐閣

十河太郎・豊田兼彦ほか 『刑法総論判例50!(2016)』 有斐閣

山口厚・佐伯仁志編 『刑法判例百選・総論[第7版](2014)』 有斐閣

5. 準備学修の内容

特に復習に力を入れてください。授業で扱ったテーマについて、レジュメやノートを読み返しながらか、復習しましょう。勉強すればするほど疑問がわいてきます。疑問点が出てきたら、テキストを繰り返し読みながら、まずは自分で考えてみましょう。図書館を大いに活用してください。それでもわからない場合は、友人と議論したり、教員に質問したりすると良いでしょう。

6. その他履修上の注意事項

授業をよく聞いて、その都度レジュメに書き込むか、ノートを取るようにしてください。自分で書いて理解することが大切です。授業の内容が聞き取れなかった場合は、あやふやのままにせず、すぐに確認してください。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーションー春期の復習ー
- 【第2回】 故意とは何か
- 【第3回】 錯誤論①ー具体的事実の錯誤ー
- 【第4回】 錯誤論②ー抽象的事実の錯誤ー
- 【第5回】 過失とは何か
- 【第6回】 責任能力／原因において自由な行為／違法性の意識
- 【第7回】 正当化事由の錯誤
- 【第8回】 未遂犯ー実行の着手ー
- 【第9回】 不能犯・中止犯
- 【第10回】 演習問題／DVD
- 【第11回】 共犯論①ー正犯と共犯の区別／間接正犯ー
- 【第12回】 共犯論②ー共同正犯／教唆犯・幫助犯ー
- 【第13回】 共犯論③ー共犯の諸問題ー
- 【第14回】 罪数論
- 【第15回】 秋期のまとめと試験